

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300735		
法人名	医療法人木水会		
事業所名	グループホーム八州苑いわふね A館		
所在地	栃木県栃木市岩舟町静1281-1		
自己評価作成日	平成28年9月20日	評価結果市町村受理日	平成28年12月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成28年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆったり・たのしく・いっしょに」の行動指針に基づき、入居者が毎日を心地よく過ごせるような環境づくりに努めている。運営推進会議や消防訓練、傾聴ボランティアといった活動を積極的に行い、近隣の住民や民生委員、消防署などにグループホームのことをもっと知っていただき、近い存在となるよう取り組んでいる。また一年を通じて、外食会、イルミネーション見学、遠足など外に出かける機会を多く持ち、職員も一緒になって楽しんだり、納涼祭やクリスマス会に家族を呼び、交流を図ることで安心と信頼を得られるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所周辺は住宅街で、学生の通学路でもあり、こども110番の家として協力していることから、子供との交流も深まっている。近隣にある同法人の医院で受診できる等、医療と福祉の連携があり、利用者、家族の安心につながっている。納涼祭等の行事や傾聴ボランティアの受け入れ等、積極的に近隣住民と交流を深めている。職員はヒアリング等で意見、提案を気兼ねなく発言する他、記録を運営に活かす等、責任感とやりがいをもって業務にあたっている。資格取得や研修の受講等、就業環境の整備にも努め、知識や技術向上を図り、事業所として日々研鑽を積んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示されている基本理念を申し送り時に全員で読み上げている。毎朝くり返し行うことで、理念を再認識し、新たな気持ちで支援すべく励んでいる。	朝の申し送り時に法人理念を唱和し、管理者と職員は共有と意識づけに励んでいる。年度末に目標を立て、カンファレンス時等に確認を行い、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員やボランティアに消防訓練や運営推進会議などへ参加を呼びかけたり、近隣の店へ買い物に出かけたりと、地域に溶け込むよう努めている。	自治会は加入していないが、傾聴ボランティアや納涼祭、学生の施設見学等の受け入れ等を積極的に行っている。散歩時に挨拶等をして地域との接点づくりに努めている。	地域住民の一員として地域と積極的に関われるよう、自治会に加入する等の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	傾聴ボランティアや学生の見学を積極的に受け入れるとともに納涼祭などの行事を機会に地域の方々に対し、広くアピールし、質問や相談があれば丁寧に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回入居者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員などが出席し、近況を報告している。ときには消防署や駐在所も参加し、専門的な立場や観点から意見を聞き、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は2か月毎に家族・利用者・民生委員・駐在所員・消防署員・地域包括支援センター職員等の参加により開催している。参加者からの意見や提案を運営や利用者支援の向上に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、様々なテーマについて意見交換をしている。また、必要に応じて入退居の報告をするなど、お互いに開放的な協力関係でいられるよう取り組んでいる。	市には事業所の利用状況や利用者のニーズを具体的に報告している。問題点等を相談しており、必要に応じて助言をもらい、市との連携により地域福祉の推進に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が理解し、認識が深まるよう定期的に勉強会を行い、身体拘束をしないケアに努めている。交通量の多い通りに面しているため玄関は、家族の承諾を得て施錠しているが、外に出る場面をつくるなどの工夫をしている。	管理者及び職員は身体拘束の内容やその弊害を認識しており、身体拘束のないケアの実践に努めている。勉強会において、レポートを提出する等、理解を深め、安全を確保しつつ自由な暮らしができるよう支援している。近隣の交通量が多い事情から、玄関は家族の了解を得て施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、虐待防止チェックシートを用いて虐待が日常化しないよう確認している。また、勉強会を行い、レポート提出をするなど意識を高めるとともに、職員間で介助方法を指摘し合い、防止に努めている。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に行われる勉強会にて成年後見人、あすてらすなどを理解している。状況に応じて家族に制度について説明し、検討していただく支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に疑問や誤解が生じないよう、分かりやすい言葉で説明している。解約時にも次の受け入れ先の説明や手配をするなど、親身になって対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族とコミュニケーションを図って話しやすい雰囲気をつくったり、運営推進会議で意見や要望をうかがい参考にしていく。また、第三者機関へ相談できることを説明したり、ポスターを掲示し、知らせている。	家族からは利用料支払い時や、面会時に意見や要望を確認するよう努めている他、外部の苦情受付機関にも申し出ができることを説明している。家族から出された意見や要望等は運営推進会議等で報告し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年行われるヒアリングにて事業計画など代表者へ意見、提案をしている。グループホームの定例会では、全職員が気兼ねなく発言できるようにし、ノートに記録、共有し、運営に活かしている。	職員は毎月の職員会議において意見や提案を気兼ねなく発言している。ノートに記録して職員の意見等を確認し、共有しながら運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者に対してさらに努力、向上するよう表彰している。職員それぞれの能力や勤務時間に見合った役割や業務を任せることで、責任感とやりがいを持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数などを踏まえ、実践者研修など外部の研修会に参加する機会をつくっている。法人全体としても勉強会を行い、知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	普段は仕事を共にすることの少ない同法人内の他事業所とは、行事などを通じて積極的に情報交換をし、交流を図ることで、お互いの取り組みを評価し、刺激し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族に施設見学をすすめ、少しでも不安が解消されるようにしている。また、意向をうかがい、できる限り気持ちに応えられるよう、コミュニケーションを重ね、信頼の構築に励んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることを言葉に表せない場合も考え、職員はそれを察して、相談できるような声かけをしている。家族の面会時には些細なことでも報告し、安心してもらえるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族に十分に聞き取りをし、状態と照らし合わせ、何が今、優先されるべきかを判断している。様々な選択肢があることを家族に説明し、適切なサービスが受けられるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や調理、園芸といったそれぞれの入居者が得意であったり、できるものを職員とともにすることで、一体感が生まれ、認め合う間柄になるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に面会や行事参加を促したり、毎月送る手紙で様子を伝えたりしている。また、体調を崩したときには連絡し、受診の協力をお願いするなど、家族の存在が必要であるという意識を持っていただくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族から話を聞き、家族の協力を得つつ、理髪店やお墓に行くなどの支援をしている。同法人の他サービスを利用している友人と面会する時間をつくるといった対応もしている。	行きつけの場所への外出や、同法人のサービスを利用している友人との面会等、利用者のこれまでの社会関係や人間関係を把握し、その関係を断ち切らないよう家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格を把握し、入居者同士、交流が生まれるよう、座席や声かけなど工夫している。お互いの関係性も認識し、あらかじめ問題が起きないように配慮している。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても、その後の様子を気にかけて、入院されればお見舞い、亡くなられば甲間に行き、家族から相談があった場合は、真摯に対応するなど、精神的な支援もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションを図り、会話の中から何を望んでいるのかを汲み取っている。生活歴や家族の話など、多くの情報をセンター方式にまとめ、意向に応えられるように努めている。	日々の関わりのなかで利用者の言動や表情から思いを把握するとともに、家族からの生活歴等の情報も参考にしながら、本人本位に検討するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から、どのように過ごしてこられたのか丹念に話をうかがい、過去にサービスを利用されたことがあれば、そのときの様子も把握し、今後の支援に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、夜間とわずかな変化もその経過を詳細に記録している。また、申し送りや定例会にて情報を共有し、一人ひとりの状態を全職員が認識できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族はもちろん、医療関係者の見解も考慮に入れ、それぞれの意見を尊重し、ケアプランを作成している。また、定期的及び状況の変化に応じて見直しをしている。	利用者及び家族のニーズを確認し、職員の気づきや提案等も参考にしながら個別の具体的な介護計画を作成している。概ね6か月を目安に、状態に応じて家族や医師とも相談しながら見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	具体的な会話や表情など誰が見ても分かるように記録し、職員はその内容を把握し、ケアプランに基づいて行ったケアを介護支援経過記録にまとめることで、ケアプラン作成の参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況が変化したときに備え、対応できるよう、早い段階から慎重に本人や家族の意向を確認し、同法人内の他事業所、サービスと連携を図り、支援できるようにしている。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアなど職員や家族以外の人と会話する場をつくるとともに、近隣の公共施設へ出かけたりすることで、充実した生活が送れるようはたらきかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者を把握し、状態の変化にも適切な対応ができるよう同法人の医院に定期的に受診し、受診の際は記録物を持参して経過を的確に伝えている。本人や家族の意思を踏まえ、他の医療機関への受診もしている。	利用者個々の希望に応じた受診支援をしている。協力医への受診は職員対応とし、その他は家族支援にて対応している。定期的に看護師や歯科医の訪問がある。情報報告や薬品管理等も適切に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師の訪問があり、入居者の健康状態について日常的に情報を共有し、相談をすることで、迅速かつ適切な処置が受けられるようにしている。緊急時にも対応できるよう連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者のホームでの様子を伝えたり、入院中の状態を聞くなど、情報交換をしている。病院や家族と綿密に連絡を取り合い、退院に向けてよりよい支援ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化した場合の説明を行っている。また、家族に入居者の状態の変化を逐一報告している。グループホームでできることを家族に伝え、今後の方針について、家族や関係機関と慎重に話し合うようにしている。	利用時に意思確認書や同意書等の説明をし、事業所で出来る事や方針について家族、医療機関と話し合っている。今迄看取りの経験はないが、今後看取りを検討する中で、家族、医療機関等と連携していく構えがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を定期的に行い、様々な場合を想定したマニュアルを作成し、素早い対応ができるようにしている。消防署に依頼し、通報の仕方や対応の注意点など、直接指導を受ける機会もつくっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いのもと、総合訓練を定期的に実施している。地域住民や民生委員に訓練への参加を募ったり、訓練の重要性や災害時の対策についての広報活動を行ったりしている。	消防署指導による総合訓練の他、通報、消火、避難訓練等も定期的実施している。民生委員にも参加を募り災害時の対策や訓練の重要性を伝えて協力体制を構築している。備蓄も確保されている。	近隣住民に訓練への参加を促したり、民生委員、自治会長等を緊急連絡網に組み入れる等、さらなる協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者個人を尊重したケアを基本とし、その方らしい生活が送れるよう職員同士、意識しながら支援するようにしている。個人情報についても本人、家族に了解を得るなど細心の注意を払っている。	利用者の人格を尊重したケアを心掛け、目立たず、さりげない言葉かけや自己決定しやすい言葉かけに努めている。個人情報保護にも配慮し、広報誌への写真掲載等は家族の了解のもと行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの人間性やコンディションなどに十分に配慮し、自らの意思で行動できるように励ましの言葉をかけたり、きっかけをつくったりと工夫している。		
		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心身の安定のため、規則正しい生活が送れるよう、基本的な時間割を設けてはいるが、各々の生活リズムを大切に、臨機応変に動けるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、整容や化粧の介助を丁寧に行ったり、ときには一緒に買い物へ出かけ、本人に服を選んでいただくなど、身だしなみに関心を持ち続けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理方法を入居者に教わったり、片づけや食器拭きを一緒にしたりと役割を感じてもらえるようにしている。職員は昼食を同じテーブルで食べ、外食会や出前を取る機会もあり、楽しく食事ができるようにしている。	管理栄養士がカロリーを計算して献立を作成している。利用者と職員と一緒に食事し、配膳、後片付け等も行っている。外食や、誕生会等の機会を設ける等、利用者の好みに応じた支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立をつくり、毎食の摂取量を確認している。食事や水分を摂ろうとしない入居者には、医師と相談し好みのもので補ったり、食べやすい姿勢を保つようにするなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者に合わせて口腔ケア用品を使い分けている。義歯は、夜間に消毒、洗浄し、不具合が生じた場合は、歯科の往診がある。また、食前にはうがいや口の体操をし、誤嚥や感染症の予防をしている。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の回数や時間が把握できるよう個別に記録し、誘導や介助方法に役立てている。排泄のリズムを整えることで、パットなどの使用を最小限にできるよう努めている。	可能な限り、トイレでの排泄ができるよう努めている。排泄チェック表を活用することで、利用者個々のリズムに応じたトイレ誘導を可能としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や声を出す運動で腸の動きをよくしている。また、飲み物だけではなく、食べ物からも多く水分が摂れるように調理の工夫をしている。便秘ぎみの方には、医師と相談し、適切に整腸剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者にその都度確認し、希望にできるだけ沿えるよう時間帯や順番、ペースなどを調整している。誘導や声かけの仕方を工夫し、抵抗なく入浴が楽しめるようにしている。	入浴は、一日置き、午後の時間を基本としているが、利用者の希望に沿えるよう対応している。入浴拒否者には、時間を変更したり、誘導を工夫する等、無理強いすることなく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体を動かす機会をつくることで、夜間の安眠を促している。体調を考え、昼寝をすすめることもある。寝つけない入居者には、安心するような声かけや照明の調整などを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧をファイル管理し、変更の度に伝達帳に記録することで、薬の内容を把握できるようにしている。協力調剤薬局と常に連絡が取れる体制にもなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や普段の様子から入居者ができることを見出して、掃除や洗濯物など手伝っていただいている。日頃の会話で聞いた好きなこと、やりたいことを取り入れ、メリハリのある生活が送れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時々ふさわしい場所へドライブに行ったり、ボランティアやイチゴ狩りをすることもある。散歩や買い物その他、お盆や焼き芋会といった行事は外で楽しんでいる。また、年末年始など家族に協力を仰ぎ、外出の機会が増えるように努めている。	イチゴ狩りや、ドライブ、食事会、買い物等、季節に応じて戸外に出る機会を作ったり、年末年始等は家族の協力を得ながら帰宅する等、利用者の希望に応じた外出支援に取り組んでいる。	

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診代や日用品購入のため、お小遣いとして預かり管理している。家族の了解を得て、少額のお金を持たれ、安心されている方もいる。ときには買物に出かけ欲しいものを購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、家族や知人と電話で話をするお手伝いをしたり、入居者に年賀状や暑中お見舞いを書いていただいて、家族に送るといったこともしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調は入居者の意見を聞くとともに温度、湿度計も確認し、調整している。照明や日差しにも気を使い、快適に過ごせるようにしている。また、季節を感じる花や入居者の習字などを飾ることで、温かみのある空間をつくっている。	五感の刺激に配慮し、温湿度等も適切に管理されている。テーブルやソファの配置等も工夫し、利用者が思い思いに居心地良くつるげる場を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファはくつろげるよう、クッションが置かれている。畳の部屋にはこたつや座布団があり、自由に休んだり、談笑できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り、家具や食器などは以前からのものを使用いただいている。また、家族の写真や飾り、好きなものを置くことで自宅で過ごしてきた空間に近くなるようにし、グループホームに溶け込めるようにしている。	各居室には家族の協力により、馴染みの品々が持ち込まれている。仏壇を持ち込み毎朝お水を供える利用者もいる。家族の写真や好みの物を置くなど自宅と変わらない空間を作る工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	間違いを少なくするため、居室やトイレの表示を分かりやすい位置や大きさにしている。また、テーブルやイスが破損していないか確認したり、廊下につまずくようなものを置かないなど注意を払っている。		